



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第20号(H22.9.24)

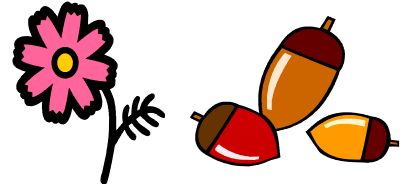
宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 大竹 正純

# 質実剛健

「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」



## 附属中、福祉体験活動始まる！

福祉の課題は、高齢社会が進展する中で、今日ならびに未来社会の重要な問題であるだけに、積極的かつ計画的に取り組まなければならない学習テーマです。

福祉活動は、具体的な実践活動を中心にしながら、思いやりの心感動する心などの豊かな人間性や自分なりの生き方を主体的に考える態度を育てることにもなり総合的な学習の時間として構成することに意義があります。福祉にかかわる内容は知識・理解・技能を養う学習として取り上げるとともに、実践的、体験的でなければならないと考えます。福祉活動によって、さまざまな人にふれ、共に生きることを意味を深く考えさせ、行動力につなげることができます。

附属中1年生は、生涯にわたってかかわる福祉の問題に対する動機づけの段階であり、身の周りの人とかかわることに関心をもつことに重点を置いて取り組みます。そこで、さまざまな障がいを経験したり、自分たちの身近にいる方々との交流を図ることで、社会の一員であることを自覚し、実際の活動を通じて自己実現を図っていくことをねらいとしています。



福祉講演会：講演題「認知症」

講師：大牟田智子先生・坊地清美先生



福祉体験活動：「手話」

講師：大橋正敏先生・福重孝両先生



福祉体験活動：高齢者模擬体験活動



福祉体験活動：「手話」で四季の歌を歌う



福祉体験活動：「アイマスク体験活動」



## 生徒の感想 鳥集佑子

～講演会では、認知症についていろいろなことを学びました。私は、認知症については少ししか知りませんでした。ですが、治療できること、誰でもなる可能性があること、そして、思いやりが必要なことを学びました。私は、もっと思いやりを持てるようになりたいと思いました。そして、思いやりをたくさん持っている人がたくさんいるといいと思いました。私は、今まで機会がなかったので、模擬体験は今回が初めてでした。高齢者疑似体験では、私は特に階段を下りるときが怖かったです。足が重りに引っ張られて、よく段差が分からなかったからです。アイマスク体験でも階段が怖かったです。ですが、介護者がいたので安心して歩けました。介護者がいるのといないのでは、だいぶ違うと思います。協力も大切だと思います。私は、これからは思いやりの心を持って、進んで協力するようにしたいと思います。

## 生徒の感想 森山陵

～認知症はテレビなどで、何度か見て知っていましたが、今日の講演、紙芝居を見て、改めて認知症はどのようなものかを知る事ができました。認知症の人とのかかわり方については、とても知って良かったと思います。驚いた事は、認知症が身近な病気だということです。75歳以上の人の約1割は認知症だと知った時は不安になりました。もしかしたら将来、自分の祖父や祖母が認知症になるかもしれないからです。そのときは、今日学んだことを活かしていきたいです。模擬体験では、いろいろな事を学びました。目が不自由な人が、どのような感じで歩いているのかアイマスクを付けて、学校の中を歩きましたが、最初はとても不安でしたが、サポーターの人のおかげで、安心して歩く事ができました。目が不自由な人も、そういうサポーターの人の事を信じて、安心して歩いているんだなと思いました。しかし、自分がサポーターとして、ついた時は、相手の事も考えずにサポートしていました。本当だったら通じなかったと思います。そこを反省して、この体験を大事にして、これからの社会に活かしていきたいです。

## 生徒の感想 伊勢宥子

～認知症のことは、テレビや本、母からの話で聞いていたので分かっていると思っていたが、今回新たに学んで、私はほとんど理解できていなかったように思った。これは健常なもの忘れは、自覚していて他の記憶から思い出せるが、認知症のもの忘れは体験全体を忘れていたので思い出しにくく、自覚ができないというものである。ただ一つのもの忘れとしてまとめられない違いがそこにあった。そんな時には、周りが相手の気持ちを大切に、一人にしないようにすることを心掛けてかかわるといった行動が軽減の一步となる。私も実行できるようにしたい。また、体験では、高齢者の方々の気持ちが分かったと思えた。不便に思ったのは、手足が曲がらず、思うように動けないこと、足下がとても見づらかったことである。段の所で苦労しているのももっともである。段を低めにし、手助けをすることが大切なものではないだろうか。アイマスク使用のときは、真っ暗で何も見えず、手足の感覚を頼りに進むので、とても不安だったし、どこに段があるのかわからなかった。一人でも声をかけてくれる人がいるとどんなに安心するだろうか。大切なことを多く学ぶことのできた貴重な時間だった。

## キャリア探究「福祉体験・交流活動」の今後の計画です！

課題設定	<b>「身近な福祉体験をしよう」</b> 福祉に関する講演会（青少年ボランティア協議会代表） 9月9日 福祉体験活動 アイマスク体験講座・点字講座・手話講座 9月16日～10月5日 福祉施設訪問 10月14日 ・都城市内の特別養護老人ホームでふれあい体験する
探究	<b>「新たな思いを生かした福祉体験をしよう」</b> 体験を振り返り、一人一人が問題をもつ 同じ問題をもつ生徒同士でグループをつくり、計画を立てる グループごとに活動する（自主的な時間） 老人ホーム、保育園など 11月
まとめ	<b>「活動を振り返り、これからの福祉活動を考えよう」</b> 体験して感じたこと、考えたこと、学んだことをまとめる 福祉にかかわってこれからどのように行動したら良いか考える <b>研究の中間発表を論文（レポート）にまとめ、ポスター形式の発表を行う。</b> 1月

